

# 持続可能性に配慮した鶏卵・鶏肉JASについて

- 我が国の鶏卵・鶏肉の生産は、素びなの生産や飼料原料の入手において、極めて海外依存度が高く、海外における伝染病の発生や干ばつなどの不測の事態が生じた場合、国内の養鶏産業の事業継続を困難なものとする懸念がある。
- 国産鶏種・国産飼料用米の利用や鶏ふんの利活用等の基準を規格化することにより、次の効果が期待され、持続可能性に寄与。
  - ① 国産資源の利活用により、海外依存に起因するリスクの低減が期待されるとともに、飼料用米の利用拡大により、未利用水田の利活用の推進や食料自給力の向上を後押し。
  - ② 人や社会・環境に配慮した消費行動（エシカル消費）を望む国内外の購買層に広くアピールすることが可能となるとともに、国内養鶏産業の競争力強化に貢献。

## 規格等の内容

- 国産鶏種・国産飼料用米の利用
- 鶏ふんの利活用
- アニマルウェルフェア・周辺環境への配慮
- 従事者への適切な労働環境の提供 など

・国産飼料用米  
5%以上給与

※鶏卵：  
産卵前10日間  
※鶏肉：  
28日齢以降

・国内で育種された  
鶏の素びなを利用

鶏卵・鶏肉の生産



・アニマルウェルフェア  
・周辺環境への配慮  
・防疫管理  
・衛生管理  
・安全衛生・労務管理 など

・鶏ふんの肥料、エネルギーとしての利用を推進  
(堆肥化、焼却熱等)

飼料用米生産